

題 潜水業務での経験

航海士 長谷川 光

当场では、様々な調査が潜水により行われています。

潜水業務を行う上で、まずはじめに必要なのは潜水士の資格取得です。そのため、潜水の事を1から勉強し、潜水士の試験を無事に合格する事が出来ました。ですが、この資格試験には実技試験がないため実際に潜って潜水を学ぶことができませんでした。そこで私は、潜水技術を学ぶべくダイビングショップへ通い、ダイビングのライセンスを取得する事で、基礎的な技術を学ぶことができました。

皆様にはこれから、私が体験した潜水業務の一部を画像と共にご紹介いたします。



図1 カジメ簡易母藻礁



図2 簡易母藻礁設置

初めての潜水業務は、カジメ増殖用務での作業でした。当场では磯焼け対策の一環として、魚の食害からカジメを守るために作られた装置「カジメ簡易母藻礁」を海底に設置し、海の生き物たちの餌や隠れ家や産卵場所である藻場を増やす為の試験研究を行っています（図1）。その際、水中での作業を伴う試験には、スキューバ潜水は欠かせません。この日は海が濁っていて手を伸ばした先が霞んで見えるほど前が見えず、バディと離れないよう必死に泳ぎました。その甲斐あってか、予定していた「カジメ簡易母藻礁」を全て安全に設置することができました（図2）。

※早熟カジメに関して詳しくは、令和4年度ほうじょうコラム[磯焼け対策の切り札となるか？早熟カジメ](#)をご覧ください。



図3 人工リーフと私



図4 ブロックに付いていたサザエ

図3、図4は、今年度小田原沖に投入されたコンクリートブロック（人工リーフ）への海藻の付着状況や魚礁としての機能を観察するべく、磯根資源調査用務の一環で潜水調査を行った際の画像です。コンクリートブロックには、小魚達やサザエなどといった生物が集まっておりまた、海の生き物たちの隠れ家にもなっていたため、魚礁効果を肌で感じることができました。

この調査では、潮の流れが速く、姿勢の維持や中性浮力が大変でしたが、一緒に潜った調査員と船員の先輩に正しい潜水器具の使い方や、常に冷静でいる事の大切さなどの無駄な体力を消費しない動き等の様々な潜水技術を学びました。

※人工リーフ調査に関して詳しくは、令和4年度ほうじょうコラム[寒くなりましたが潜水調査へ](#)をご覧ください。

最後に

今回は、私が経験した潜水業務の一部を紹介させていただきました。

私達船員は、船の舵やプロペラにロープ等の漂流物が絡んでしまうなどのトラブルの際、潜水作業により除去します。そのため、安全に潜水作業を遂行出来るよう訓練も兼ねて、定期的に潜水作業を伴う調査・研究の補助に従事しています。今後は経験を生かし、船の緊急時にも素早く対応して漁業調査指導船「ほうじょう」の安全運航に貢献できるよう頑張っております。



図5 潜水業務を行っている様子（水中ドローンにて撮影）